

〔 横浜市大佛次郎記念館 〕  
 令和4年度業務報告及び収支決算  
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

- ※ 文中の事業欄において、  
 ●：主催事業 ○：共催事業  
 を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、  
 □：定量的指標 ■：定性的指標  
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市大佛次郎記念館
所在地	横浜市中区山下町 113
構造・規模	鉄筋コンクリート造地上2階地下2階建
敷地・延床面積	延床面積 1,108.39 m <sup>2</sup> (本館：709.64 m <sup>2</sup> 、新館：398.75 m <sup>2</sup> )
開館日	昭和 53 年 5 月 1 日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2
代表者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成 28 年 4 月 1 日 (昭和 53 年 財団法人大佛次郎記念会管理運営開始)

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針の総括

多様な切り口、多様な手段で大佛作品と大佛次郎の生き方を発信し、読書や創作活動を中心とする文化活動の活性化に取り組みました。

継続的な調査研究の成果は、展示や出版に活用し、広く還元しました。文化事業を通じて子供たちが物語の世界に触れ感性を育む機会を創出し、文学館の基本的な機能である「観る、知る、読む」体験により「考える」力を深めるきっかけを作りました。また、所蔵資料のデータ公開やレファレンス対応により資料の活用を図り、6施設で当館資料が展示されました。

横浜音祭り、横濱 JAZZ PRMENADE、横浜フランス月間に参加し、街と文化の魅力を発信することで、新たな来館者を誘致することができました。

大佛次郎作品を読む機会の減少という課題の解決に取り組み、新規出版や復刊を積極的に働きかけ、編集協力を行いました。その結果、新刊、復刊、重版あわせて5冊を世に問うことができました。

た。また、大佛次郎の半生を題材にした漫画作品の単行本2巻が新たに刊行され、令和5年度には、この漫画原画を活用する展示を予定しています。

## (2) 令和4年度の業務の方針の総括

### ア 全体について

調査研究の基本である資料収集に努め、貴重資料を含む数十箱を受領しました。新たに設けた特別資料整理期間を活用し、400点以上の調査を行いました。資料活用の基盤となる新デジタルアーカイブ構築のため、既存データを含めたデータの分類体系化などの準備を進めました。

大佛次郎の人と作品を伝える3つのテーマ展示や、施設を活用する新規事業を実施し、文学館の基本的な機能である「観る、知る、読む」を充実させました。

管理運営面では、感染症拡大防止に取り組みながら、文学を媒介として幅広い文化活動を推進しました。適切な修繕を行い、安全安心な施設運営を行いました。

さらに、2023年の大佛次郎没後50年に向けて、記念事業や出版の準備を行い、多数の連携事業を共同企画しました。

### イ 使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

7日間の特別資料整理期間に、416点の資料調査を実施し、369点のデジタル化を行いました。大佛研究のプラットフォームとなる新デジタルアーカイブの構築に向け、データ整備を進めました。

### ウ 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

テーマ展示Ⅰ「実朝と桜子～大佛次郎が紡いだ武士と雅～」、テーマ展示Ⅱ「JAZZが聞こえる 大佛次郎の昭和モダン」、テーマ展示Ⅲ「大佛次郎 美術の楽しみ—大佛次郎記念館コレクションより」を開催し、大佛次郎の人と作品を広く周知しました。

### エ 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

新規に、ロビーコンサートや文字活字文化の魅力を伝える事業を行い、文学の多様な魅力に触れる機会を広げました。

### オ 使命4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

句会、歌会、朗読、落語など、読書推進活動の場として和室・会議室が活用されました。市民に文化を中心とした活動の場を提供し、和室、会議室とも利用率は目標を上回りました。

### カ 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館各館との共催事業や、文学館、博物館、美術館との相互協力により、ネットワークが広がりました。

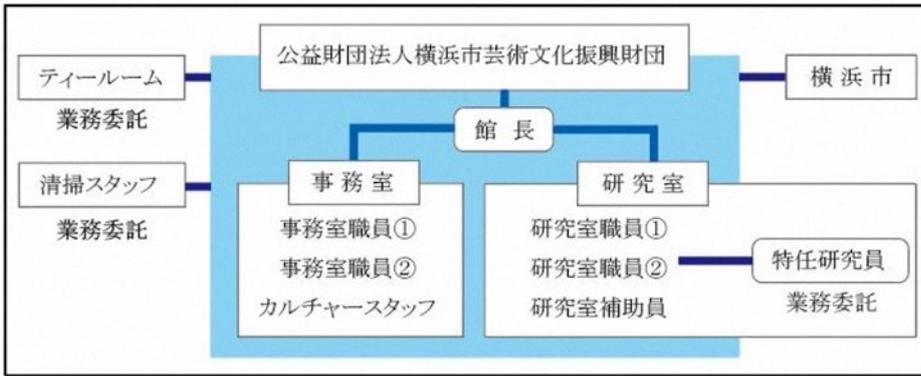
### キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

施設維持・資料保存については年間の計画どおり行いました。施設設備不具合には初期対応を心がけ、施設を良好な状態に保ち、安全・安心にご利用いただけるようにしました。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

横浜市ガイドラインのとおり、館内の換気・消毒、職員の健康管理を日常的に行いつつ、非接触の取組を推進しました。

#### 4 運営組織の構造、人員配置の総括



組織図のとおり職員、臨時職員を配置し、カルチャースタッフは常時1名配置しました。専門的な業務は委託しました。

#### 5 令和4年度の業務の取組の総括

##### I 文化事業

##### (1) 文化事業

令和4年度は、新デジタルアーカイブ構築のため、現行のアーカイブ公開を続けながら、新たに設けた7日間の資料調査期間を活用して、集中して資料の整理、保存状態の確認・記録を実施し、毎月の整理日と合わせて416点の資料調査を進めました。

年3回のテーマ展示は、大河ドラマと同時代の歴史小説を取り上げた「実朝と桜子 ～大佛次郎が描いた武士と雅～」、横浜音祭りや横濱JAZZ PROMENADEと連携し音楽からライフスタイルを探る「JAZZが聞こえる 大佛次郎の”昭和モダン”」、所蔵美術品とその作者との交流を紹介する「大佛次郎 美術の楽しみ—大佛次郎記念館コレクションより」を実施しました。また、愛蔵品コーナー「大佛次郎と長谷川路可—イタリアに咲いた花」はテーマ展示と連動、収蔵品展では、映画公開にあわせた「ドレフェス事件」コーナー、出版にあわせた「スイッチョねこ」コーナー、フランス月間ミニ展示「横浜山手のジャンヌさん」を、テーマ展示や時々のトピックに合わせて開催しました。

令和5年度に予定する『南方ノート・戦後日記』の出版に向けて編集業務を進めながら、出版社への働きかけを行い、編集や広報に協力した新刊・復刊・重版は、関連書籍を含め7冊におよびます。また、愛蔵品コーナー「明治期横浜の画家・五姓田義松」に合わせて、大佛次郎記念館ブックレット7『尋ねびと—横浜の画家 五姓田義松をめぐる』を制作しました。

若い世代に向けたビブリオバトルなどの文化体験イベントや、横浜美術館や市民ギャラリーあざみ野と連携した文字活字文化の魅力を伝える新規事業、大佛次郎記念館の資源を活かした初のロビーコンサートなど、ネットワークを広げ、芸術文化、多様性を学ぶ機会を創出しました。

広報ではWEBと紙媒体を併用し、広く情報発信を行いました。「大佛次郎記念館×鎌倉文学館 対談『展覧会のススメ』」WEBで期間限定公開は、初のWEB連携企画でした。SNSでは2月22日猫の日に猫に関するエッセイの引用を紹介し、多くの閲覧がありました。ホームページ改修に向けて、大佛次郎のペンネームの由来や、猫に関するエピソード、大佛次郎の人となりや足跡を紹介するための準備を行いました。

## (2) 施設運営

撮影や落語会等特徴的な利用事例のSNS発信や、利用者がテレビ番組で紹介されたことなどにより、貸出施設（和室・会議室）の利用が活発に行われました。また、ティールーム霧笛と連携し、季節に合わせたメニューを広報することで、施設全体をお楽しみいただくことができました。

## (3) 施設管理

法令等にのっとりた施設の保守・点検等を着実に行いました。雨漏り箇所のコーキング補修、空調機修理、電力子メーター更新、PCサーバー機更新など、不具合には早期に対応し、安全安心を確保しました。課題となっていた玄関扉等建具の不具合は、市施工により改善が図られました。分電盤や消防設備の更新に向けた調査等への積極的な協力と合わせ、地下工事の影響調査にも協力しました。

## (4) 収支

補助金獲得に積極的に取り組み、文化庁AFF!2、感染拡大予防事業、横浜音祭り、地域の文化芸術活性化支援事業（地域活性化モデル事業）を活用して事業を充実させることができました。また、NPO法人 美術保存修復センター横浜の「絵画修復プロジェクト」からのご寄附により5点の収蔵美術品修復を行いました。

「濱ともカード」の優待内容を無料から半額割引に変更したことなどにより、収入は予算を上回りました。一方、光熱水費が大幅に上昇し、収支はマイナスの見込みです。

## (5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

第二期指定管理期間の開始にあたり、提案書の内容について計画・報告に反映させ、基本的な業務の進捗結果を報告しました。

## (6) その他

関係法令の遵守や個人情報保護に施設全体で取り組み、事故を防止しました。

※ 5（1）～（6）の具体的な取組内容や実施状況は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況

(1) 使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	研究成果物の発表回数	刊行物 編集	刊行物 1冊	—	—	—	刊行物 累計3 冊	—
2 ★	資料調査の対象カテゴリーの 数	2カテ ゴリー	—	—	—	—	5カテ ゴリー /5年	—
3 ★	温湿度点検と 保存環境点検 の回数、特別 資料整理の期 間	温湿度点検	2回/ 日	2回/ 日	—	—	2回/ 1日	
		保存環境点検	1日/ 1か月	1日/ 1か月			1日/ 1か月	
		特別資料整理 の期間	1週間 /年	—			1週間 /年	
4 ★	特別資料調査期間の結果を、新 デジタルアーカイブに流し込 む点数	準備	—	—	50点 (木村 荘八)	—	130点 (猫コ レクシ ョン)	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	収蔵作品の状況把握	R 4 実績	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認実施
		R 5 達成指標	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	優先度に応じた資料修復
		R 8 実績	—
2	研究成果物の読者の 声	R 4 実績	刊行に向けた準備
		R 5 達成指標	『日記』刊行時WEBアンケート実施
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	WEBアンケート検証
		R 8 実績	—

3 ★	新デジタルアーカイブのHPでの閲覧・検索機能の構築	R 4 実績	新デジタルアーカイブデータ移行準備
		R 5 達成指標	新デジタルアーカイブに画像データを加える
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	HPで閲覧・検索ができる
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

基礎研究で得られたデータならびに、既存のデジタルデータ 20,000 アイテム以上（非公開、未精査データ含む）を、2023年を目途に新デジタルアーカイブシステムへ流し込む準備として、全収蔵資料の分類・体系化、データの振り分けや加工などのデータ整備を行いました。また、木村莊八挿画等関連資料 51 点を含む 369 点について、特別資料整理期間にデジタルデータ化しました。

(2) 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	自主事業の来館者数 (観覧者数)	15,656	【没後 50年】 21,000 人/年	—	—	—	18,500 人/年	—
2	来館者(参加者)の満足度(アンケート調査) / 5 点満点	4.7	満足度 平均 4.4以上				満足度 平均 4.4以上	
3 ★	レファレンス内容をWEBで紹介する件数	3件/ 年	3件/ 年				3件/ 年	
4 ★	既存データを引き継ぎ、新デジタルアーカイブで公開する カテゴリーの数(2023年～)	準備	—				10件/ 4年	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者の声	R 4 実績	聞き取りアンケートの実施準備
		R 5 達成指標	聞き取りアンケートの実施
		R 5 実績	—

		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者の声の反映
		R 8 実績	—
2 ★	大佛次郎の今日的意義を作品や生き方を現代の視点から捉え直し文学館活動を通じて伝える (提案書様式9、2ページより抜粋)	R 4 実績	展示や SNS を通して、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 達成指標	来館者やHP 来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者やHP 来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

テーマ展示の実施に加え、2023年大佛次郎没後50年記念出版と連動した展示の開催に向けて、資料確認、各方面の調査、連携の提案等を行いました。初公開となる『南方ノート・戦後日記』翻刻原稿の確認、注記のための多方面にわたる調査など編集をすすめ、2023年夏に刊行の見込みです。あわせて、出版と連動した展示では、鎌倉市鏑木清方記念美術館との相互連携企画など、大佛次郎を広く知っていただくための準備を行いました。

(3) 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	各種文化事業の実施回数	22回/年	16回/年	—	—	—	17回/年	—
2	来館者(参加者)の満足度/5点満点	4.2	満足度平均4.5以上	—	—	—	満足度平均4.5以上	—
3 ★	新規イベント実施回数	3回	—	—	—	—	累計5回以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者(参加者)の声	R 4 実績	聞き取り調査の実施に向けた準備
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施

		R 5実績	—
		R 6実績	—
		R 7実績	—
		R 8達成指標	聞き取り調査内容の反映
		R 8実績	—
2 ★	継続事業の工夫	R 4実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2023」は、近隣ねこ関係展示と連携し、“猫聖地めぐり”を案内
		R 5達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 5実績	—
		R 6実績	—
		R 7実績	—
		R 8達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 8実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

「言葉が生み出す力」を感じるプログラム作りを行い、朗読とピアノ演奏でおくる「スイッチョねこロビーコンサート」では、文学館ならではの体験機会を提供しました。

(4) 使命4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4実績	R 5達成指標	R 5実績	R 6実績	R 7実績	R 8達成指標	R 8実績	
1	貸館利用率	和室	28.3%	24%	—	—	—	30%	—
		会議室	43.4%	33%	—	—	—	42%	—
2 ★	入館者数	18,279人	25,000人/年	—	—	—	22,500人/年	—	
3 ★	撮影利用件数	23件/年	10件以上/年	—	—	—	10件以上/年	—	
4 ★	WEB来訪者数	278,054	1,650,000件以上/年				1,650,000件以上/年		

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
		達成指標	実績
1	利用者との意見交換等による現状把握	R 4 実績	意見交換会開催にむけた準備
		R 5 達成指標	意見交換会開催
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	意見の検証と反映
		R 8 実績	—
2 ★	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す	R 4 実績	掲示板設置のための調査
		R 5 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 8 実績	—
3 ★	施設の活用方法の提案	R 4 実績	施設利用例をブログや SNS で紹介
		R 5 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HPやSNS投稿等により情報発信されている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HPやSNS投稿等により情報発信されている
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

施設の活用方法を提案し利用を促進するため、令和5年度に予定するホームページ改修に向けて、ホームページとSNSが連動する仕組みを作りました。施設利用例をブログやSNSで紹介したことにより、新たな撮影利用を呼び込むことができました。

(5) 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	新規連携事業	新規連携累計	—	—	—	新規連携累計	—

		6件	3件				7件	
2 ★	連携する団体数の増	4件/ 年	1件以 上/年	—	—	—	1件以 上/年	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したこと による関係者 の声	R 4 実績	連携先との意見交換
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	聞き取り調査の反映
		R 8 実績	—
2	他の文学館と の意見交換等 による現状把 握	R 4 実績	全国文学館協議会会員間の情報共有
		R 5 達成指標	全国文学館協議会共同討議参加
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	他館の事例を検討し運営に反映
		R 8 実績	—
3 ★	記念館ボラン ティアを継続 して運営し、 事業や運営に 市民参加が行 われている	R 4 実績	記念ボランティアの事業運営への参加
		R 5 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

2023年大佛次郎没後50年に向けて、各方面とのネットワークを強化し、連携して記念事業を実施するための準備を行い、多くの団体等との連携事業を予定しています。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	97%	90%	—	—	—	90%	—
4 ★	施設の快適度についてのアンケート調査結果 /5 点満点	4.6	平均 4.0 以上	—	—	—	平均 4.0 以上	—
5 ★	施設内外の巡回点検回数	2回/ 日	2回/ 日	—	—	—	2回/ 日	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	利用時に意見を伺う
		R 5 達成指標	ヒアリングを実施
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングを反映した運営
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費水準の要因分析	R 4 実績	年数回の分析と調整
		R 5 達成指標	年数回の細やかな分析
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	分析の継続
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

法令等にのっとりた施設の保守・点検等を着実にを行い、安全安心を確保しました。点検結果は市に報告し、不具合には早期に対応しました。

## 令和4年度 「大佛次郎記念館」 収支決算書

収入の部							(税込、単位：円)
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明	
指定管理料	51,646,000		51,646,000	51,646,000	0	横浜市より	
利用料金収入	722,000		722,000	939,500	△ 217,500	和室会議室利用料金収入	
自主事業収入	1,923,000		1,923,000	2,536,200	△ 613,200	コレクション展収入・事業収入	
横浜市による運営支援				933,000	△ 933,000	物価高騰に伴う支援金、負担金	
雑入	3,223,000	0	3,223,000	3,856,078	△ 633,078		
協賛金・助成金・負担金・寄附金	102,000		102,000	1,170,606	△ 1,068,606	文化庁AFF!2・横浜音祭り・地域の文化芸術活性化支援事業（地域活性化モデル事業）他	
ショップ収入	1,800,000		1,800,000	1,380,021	419,979		
商用撮影・特別利用料	251,000		251,000	140,680	110,320		
ティールーム霧笛設備使用料	1,070,000		1,070,000	1,072,500	△ 2,500		
その他雑収入(ゴミ処理・複)	0		0	92,271	△ 92,271		
<b>収入合計</b>	<b>57,514,000</b>	<b>0</b>	<b>57,514,000</b>	<b>59,910,778</b>	<b>△ 2,396,778</b>		
支出の部							
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明	
<b>人件費</b>	<b>38,080,000</b>	<b>0</b>	<b>38,080,000</b>	<b>38,548,030</b>	<b>△ 468,030</b>		
給与・賃金	31,579,000		31,579,000	31,620,736	△ 41,736	カルチャースタッフと特任研究員の人件費を含む	
社会保険料	4,120,000		4,120,000	4,327,859	△ 207,859		
通勤手当	1,387,000		1,387,000	1,315,040	71,960		
健康診断費	52,000		52,000	35,142	16,858		
勤労者福祉共済掛金	18,000		18,000	24,000	△ 6,000		
退職給付引当金繰入額	924,000		924,000	1,225,253	△ 301,253		
<b>事務費</b>	<b>4,188,000</b>	<b>0</b>	<b>4,188,000</b>	<b>4,524,025</b>	<b>△ 336,025</b>		
旅費	5,000		5,000	16,771	△ 11,771		
消耗品費	500,000		500,000	413,940	86,060		
会議賄い費	20,000		20,000	42,720	△ 22,720	雑支出（その他）	
印刷製本費	1,080,000		1,080,000	1,565,039	△ 485,039	施設広告宣伝費・WEB運営費含む	
通信費	500,000		500,000	516,429	△ 16,429	通信運搬費	
使用料及び賃借料	1,260,000	0	1,260,000	1,296,969	△ 36,969		
横浜市への支払分	820,000		820,000	873,802	△ 53,802	目的外利用料	
その他	440,000		440,000	423,167	16,833	コピー等OA機器賃借料	
備品購入費	200,000		200,000	94,270	105,730		
図書購入費	150,000		150,000	42,000	108,000	資料収集	
施設賠償責任保険	40,000		40,000	37,880	2,120	施設賠償責任保険および動産保険	
職員等研修費	5,000		5,000	0	5,000		
振込手数料	50,000		50,000	32,003	17,997		
リース料	220,000		220,000	239,292	△ 19,292		
手数料	125,000		125,000	193,712	△ 68,712	粗大ゴミ処理費	
会費等	33,000		33,000	33,000	0	会費等	
<b>事業費</b>	<b>2,522,000</b>	<b>0</b>	<b>2,522,000</b>	<b>3,865,586</b>	<b>△ 1,343,586</b>		
自主事業費	2,522,000		2,522,000	3,865,586	△ 1,343,586	助成金や事業収入増に伴う、事業充実による	
<b>管理費</b>	<b>5,885,000</b>	<b>0</b>	<b>5,885,000</b>	<b>6,759,922</b>	<b>△ 874,922</b>		
光熱水費	1,200,000	0	1,200,000	2,117,062	△ 917,062	電気料金の高騰による	
電気料金	960,000		960,000	1,893,219	△ 933,219	電気料金の高騰による	
ガス料金	0		0	0	0		
水道料金	240,000		240,000	223,843	16,157		
清掃費	2,400,000		2,400,000	2,517,240	△ 117,240		
修繕費	900,000		900,000	871,670	28,330		
機械警備費	403,000		403,000	256,080	146,920		
設備保全費	982,000	0	982,000	997,870	△ 15,870		
空調衛生設備保守	260,000		260,000	272,800	△ 12,800		
消防設備保守	154,000		154,000	154,000	0		
電気設備保守	150,000		150,000	149,820	180		
防塵・防微作業委託費	300,000		300,000	301,730	△ 1,730		
駐車場設備保全費	0		0	0	0		
その他保全費	118,000		118,000	119,520	△ 1,520		
共益費			0	0	0		
<b>公租公課</b>	<b>3,701,000</b>	<b>0</b>	<b>3,701,000</b>	<b>3,668,800</b>	<b>32,200</b>		
事業所税	0		0	0	0		
消費税	3,699,000		3,699,000	3,667,600	31,400		
印紙税	2,000		2,000	1,200	800		
その他（ ）	0		0	0	0		
<b>事務経費</b> （計算根拠を説明欄に記載）	<b>3,138,000</b>	<b>0</b>	<b>3,138,000</b>	<b>3,138,000</b>	<b>0</b>		
本部分	3,138,000		3,138,000	3,138,000	0		
当該施設分	0		0	0	0		
<b>支出合計</b>	<b>57,514,000</b>	<b>0</b>	<b>57,514,000</b>	<b>60,504,363</b>	<b>△ 2,990,363</b>		
差引	0	0	0	△ 593,585	593,585		